

# 有限会社森谷ファーム

※登記時の法人名は「(有) 森谷」

※2016年3月現在

代表者名	森谷 健吉	資本金	3百万円
設立年	1992年2月1日	売上高	82百万円(2015年1月期)
事業内容	生産(タマネギ、白花豆等)	経営規模	畑35ha
従事者数	8人(うち女性5人。女性内訳:役員2人、常勤パート3人)		

女性活躍支援	[女性に配慮して取組んでいる制度]
	休暇(産前産後・育児・生理)、短時間勤務制度、育児休業代替要員を確保、育児休業後の継続就業支援
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備]
	施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレの設置)、重労働等の業務改善



## 経営概況

(有) 森谷ファームは、北海道北見市街から30kmほど離れたところにある。この地へ入植して80年以上の歴史を持ち、入植3代目である森谷健吉氏が1992年に法人化し、畑35haでタマネギや豆類、小麦、ビート等を生産している。売上は2015年1月期8,200万円となっており、前年度6,600万円から大きく成長している。

役員には、3代目の健吉夫妻と4代目となる長女の裕美氏、裕美氏の従兄の男性の計4名が就任しており、特に裕美氏は入植4代目の次期女性農業経営者として経営を引き継いでいる最中であ

る。裕美氏は農業を支えてきた女性たちの想いを後世に伝えるとともに、女性が自信をもって農業へ関われる農村社会の実現を目指している。

従事者数8名のうち女性は5名で、役員の裕美氏と母親以外に常勤パート3名が雇用されている。繁忙期には臨時パートで10名(男性4名、女性8名)が加わる。

## 1. 経営者の意識改革

家長制度が色濃く残り、妻は夫に従う事が当たり前の農村社会で、祖母と母がいかに苦労してきたかを、裕美氏は幼い頃から見てきたという。農村を支えてきた女性たちの休みといえるのはお盆と正月のみで、農作業が機械化されていなかった時代の重労働を黙々とこなし、そうした境遇に不満を言うこともなかった強く明るい祖母と母の姿は、裕美氏の経営観に大きな影響をもたらした。

裕美氏は1993年に就農。経営に参画するにあたり、ワークライフバランス、雇用環境の整備、女性の感性やアイディアを取入れた業務の見直しを行う事で、女性が働きやすい環境を整える努力を続けている。



## 2. 女性職員の役員への登用

裕美氏は2012年に取締役役に就任。4代目として父から経営を引き継ぐことに加え、森谷ファームのある<sup>るべしべ</sup>留辺蘂町の地域を盛り上げるために、“白花豆”を用いた地域活性化にも取り組んでいる。現在の森谷ファームの主な生産物であるタマネギに加え、地元の特産物で生産量が日本一の白花豆を、森谷ファームでも3haほど栽培している。地元レストラン、菓子店、商業者、農業者、酪農家とともに、白花豆の生産振興・PRを図るため「るべしべ白花豆くらぶ」を立ち上げた。裕美氏は「るべしべ白花豆くらぶ」の初代会長に就任し、白花豆を使ったスイーツの商品化やPR、イベントの企画、地域活性化に取り組んでいる。

雇用の確保では、農業研修生、ボラバイト（ボランティアとアルバイトの造語）の受け入れを国内外から積極的に受け入れることで、交流と学びの場としても機能させつつある。またホームページやフェイスブックページからの情報発信、ブランディングを行うことで、ネット販売を中心に新たな販売先を獲得している。

## 3. 子育て・出産に係わる制度

以前は、多忙な時期は女性作業員側から休暇取得を言い出しにくい雰囲気があったため、次期経営者として改善を図る必要があると考えていた。そこで森谷ファームでは、女性従業員が農繁期でも臆することなく休暇取得を申し出られる環境を整備している。その取り組みの結果、女性従業員が自発的に話し合うことができ、各自の都合に合わせて交代で休みがとれる環境ができあがっている。

自身も子供を持つ立場でもある事から、育児をしながらでも仕事を続けられるように短時間勤務制度も設けている。また、育児休業代替要員を確保しており、育児休業後の継続就業支援も行っている。

## 4. 女性が働きやすい環境の整備

タマネギの収穫選別作業の立ち仕事用として、座高調整可能な椅子の設置、畑の要所に牽引式の水洗トイレの設置など、女性にとって身体的負担の少ない作業環境を整備している。ワークライフバランスのとれた働き方により、農作業の疲労軽減や女性の家事時間等の確保が容易となり、それぞれが適宜リフレッシュしながら快適に作業へ取り組むことで、作業の効率も向上したという。

2015年からは障がいをもった方々の働く場として農業分野を提供する取組みを推奨する「農福連携」に取り組んでいる。また、世界基準の生産工程管理GLOBALG.A.P.を2016年3月に取得する等、農業法人協会の視察勉強会などを活用しながら、次期経営者として日々研鑽を積んでいる。

### 審査委員の声

北海道に入植し80年以上、現在4代目として経営を引き継ぐ女性経営者である。

祖母・母親が農業の重労働で支える姿を見てきたこと、ご自身が子育て中であることから、女性が働きやすい職場改善に貢献。機械化や椅子の設置、情報共有方法まで、従業員の声に耳を傾ける調整型だ。

主力製品のタマネギに加え、日本一の生産量を誇る高付加価値の“白花豆に対する誇り”と、地域を巻き込んだ“ブランド化の意気込み”が感じられるのも、女性ならではの、周囲を巻き込む上手さだろう。加えてホームページも是非ご覧いただきたい。美しいオホーツクの農園風景、かわいらしいタマネギイラスト、そして写真ギャラリーには立派なタマネギと子供たち！生産物だけでなく、地域愛とともに生活を感じさせるホームページに女性の活躍を垣間見ることができる。